

2021年11月17日
日本船主協会 海事人材部

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

この度、その一環として2021年11月6日(土)に開催された、荒川区立第三中学校(東京都)の校内ハローワークに協力しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在生徒にその職業について紹介するという取り組みです。生徒が様々な職業の魅力や苦勞、やりがいやを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深め、卒業後の進路や生き方について考えることを狙いとしています。当校内ハローワークは、今年で16回目を迎えました。当協会には2011年度より招請があり、今回で11回目の講師派遣となりました。

今年度は11月6日(土)に開催され、日本郵船株式会社より近藤 朱梨 二等航海士、杉山 直也 二等機関士の2名が講話をしました。海技者の他、グラフィックデザイナー、落語家、漫画家、消防士、提灯職人など多種多様な31職種の講師が招かれ、1~3年生の全校生徒がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計40名の生徒が参加しました。そして、海運が社会に果たしている役割や重要性、船の大きさ、船上での仕事内容、海技者への進路などについて、船内外の写真や動画を交えた説明を熱心に聞いていました。また、そのスケールの大きさに非常に驚いている様子でした。

さらに、「英語力はどのくらい必要か」、「仕事をする上で大事にしていることは何か」、「国家試験はどのくらい難しいのか」、「お休みはどのくらいあるのか」など、各講座とも様々な質問がありました。また、講座後の参加生徒の感想には、「将来の夢の選択肢が増えた」と喜ぶ声もあり、生徒に海運業界や海技者の仕事の魅力が伝わった様子でした。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後もこうした若年層へのキャリア教育の場に積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めていきます。



講師の近藤二等航海士（左）、
杉山二等機関士（右）



船のスケールの大きさを伝える
杉山二等機関士（右）



船の画像を見せながら、航海士・
機関士の仕事内容を説明している
近藤二等航海士



杉山二等機関士の質問に、挙手で
答える生徒たち